

第 14 回 新石垣空港事後調査委員会

平成 31 年度 モニタリング調査計画

令和元年 7 月



## 目 次

1. モニタリング調査.....	1
1.1 モニタリング調査の目的 .....	1
1.2 モニタリング調査の実施フロー .....	1
2. モニタリング調査計画.....	2
2.1 河川水生生物（第1ビオトープ） .....	2
2.1.1 調査項目 .....	2
2.1.2 調査時期 .....	2
2.1.3 調査地点 .....	2
2.2 陸域生態系（ハナサキガエル類） .....	4
2.2.1 調査項目 .....	4
2.2.2 調査時期 .....	4
2.2.3 調査地点 .....	4
2.2.4 調査方法 .....	4



# 1. モニタリング調査

## 1.1 モニタリング調査の目的

「新石垣空港整備事業に係る環境影響評価書」に記載されている事後調査及び環境監視（以下、「モニタリング調査」とする。）は、工事中から供用時において、事業による環境影響の程度、環境保全措置及び環境保全配慮の効果等を把握するとともに、環境影響評価との比較を行うことにより、環境影響の回避・低減措置を図り、調査結果については、データの蓄積を行い、事例を記録に残すことで、有効活用することを目的とする。

## 1.2 モニタリング調査の実施フロー

モニタリング調査の実施フローは図 1-1 に示すとおりである。沖縄県環境影響評価条例に基づいて、事後調査報告書を作成し、沖縄県知事に送付するとともに公告・縦覧を行ってきた。

沖縄県は事業者として、モニタリング調査計画、モニタリング調査結果のとりまとめ及び必要に応じた環境保全措置の再検討について委員会では指導・助言を得ながら調査等を実施する。

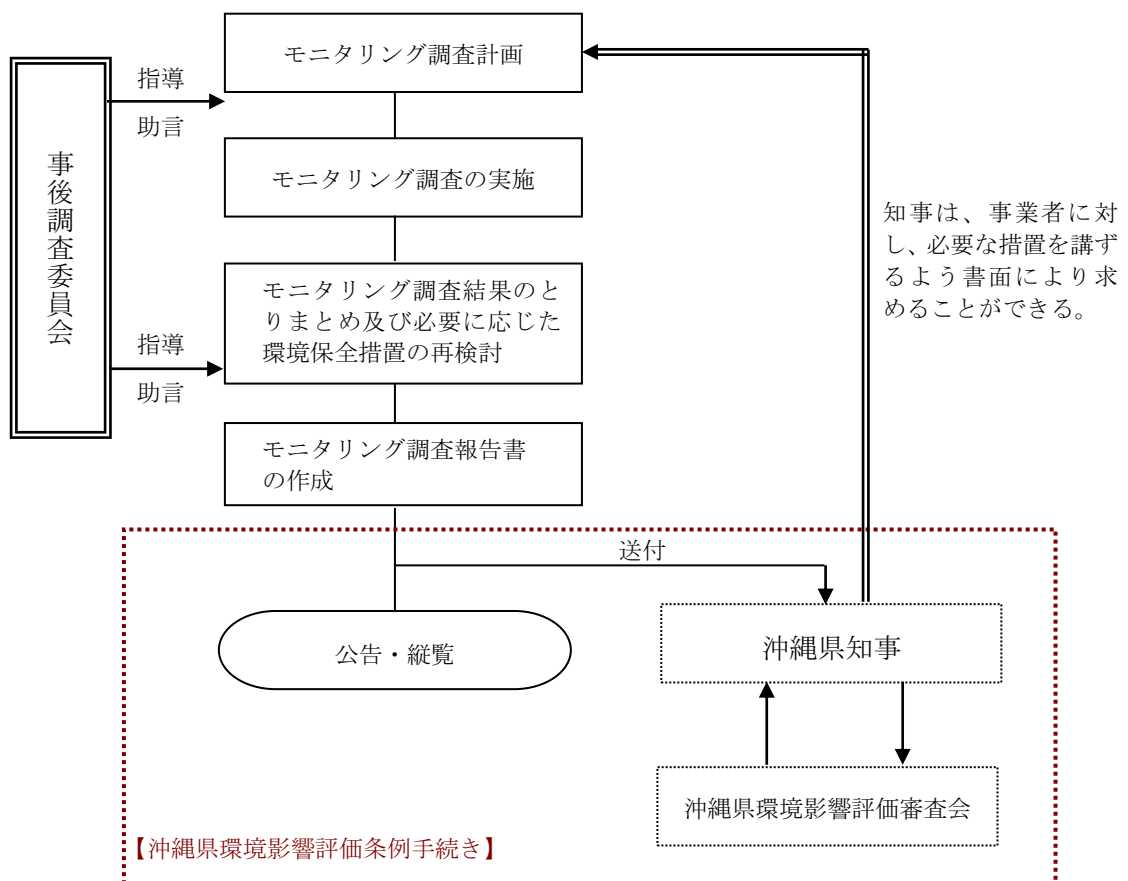


図 1-1 モニタリング調査実施フロー

## 2. モニタリング調査計画

平成 31 年度モニタリング調査計画は以下に示すとおりである。

### 2.1 河川水生生物（第 1 ビオトープ）

#### 2.1.1 調査項目

「新石垣空港整備事業に係る環境影響評価書」における環境保全措置として、河川水生生物については、重要な種の生息場所の消失を代償する措置として、ビオトープの創出及び移動を行うこととしている。平成 22 年度、23 年度は、平成 21 年度に改変区域内小河川で捕獲した重要種（サキシマヌマエビ・ムラクモカノコガイ・コハクカノコガイ）を創出したビオトープへ移動し、移動後の生息状況を確認している。平成 31 年度は引き続き、移動後の重要種の生息状況について確認調査を継続すると共に、遡上個体や他のアマオブネガイ類についても生息状況調査を行う。また、水質調査・水生生物調査・水位観測等を実施し、第 1 ビオトープの生息環境が維持されているか確認する。

##### ① 移動後の生息状況の確認

移動後の生息状況の確認

##### ② 第 1 ビオトープ確認調査

水生生物、水質、底質、水位観測

#### 2.1.2 調査時期

##### ① 移動後の生息状況の確認

令和元年 8 月、12 月

##### ② 第 1 ビオトープ確認調査

水生生物、水質・底質：令和元年 8 月、12 月

水位観測：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

#### 2.1.3 調査地点

調査地点は図 2-1 に示すとおりである。



図 2-1 調査地点 (河川水生生物)

## 2.2 陸域生態系（ハナサキガエル類）

### 2.2.1 調査項目

#### ① 移動地での生息・繁殖状況の確認

「新石垣空港整備事業に係る環境影響評価書」では、環境保全措置としてビオトープの設置を検討している（第1ビオトープ）。工事計画やその進捗状況を勘案し、別途、平成20年度に第2、3ビオトープを施工し、試験的にハナサキガエル類の移動を第3ビオトープに行ったことから、各項目についてモニタリング調査を行う。

また、平成26年度に第1ビオトープの環境が整備されたことから、オオハナサキガエルの幼生を移動しており、第1ビオトープについてもモニタリング調査を行う。

なお、第1ビオトープでは平成26年度から平成29年度にかけて幼生、幼体の計10,136個体を移動しており、野生個体の繁殖も確認されていることから、継続的に実施してきたオオハナサキガエルの飼育及び幼生・幼体の移動は、平成29年度で終了し、平成30年度以降は移動後の生息・繁殖状況の把握を実施する。

### 2.2.2 調査時期

#### ① 移動地（第1及び第3ビオトープ）での生息・繁殖状況の確認

生息・繁殖状況確認：平成31年4月、令和元年5月

### 2.2.3 調査地点

調査地点は図 2-2 の第1ビオトープ及び第3ビオトープである。

### 2.2.4 調査方法

項目ごとの調査方法は以下に示すとおりである。

#### ① 移動地での生息・繁殖状況の確認

過年度より放流した個体の生息繁殖状況を知るために、本種の繁殖期に調査を実施し、個体(成体、幼体)、鳴き声、卵塊等の有無について把握する。また、捕食者(鳥類など)等についても併せて記録する。



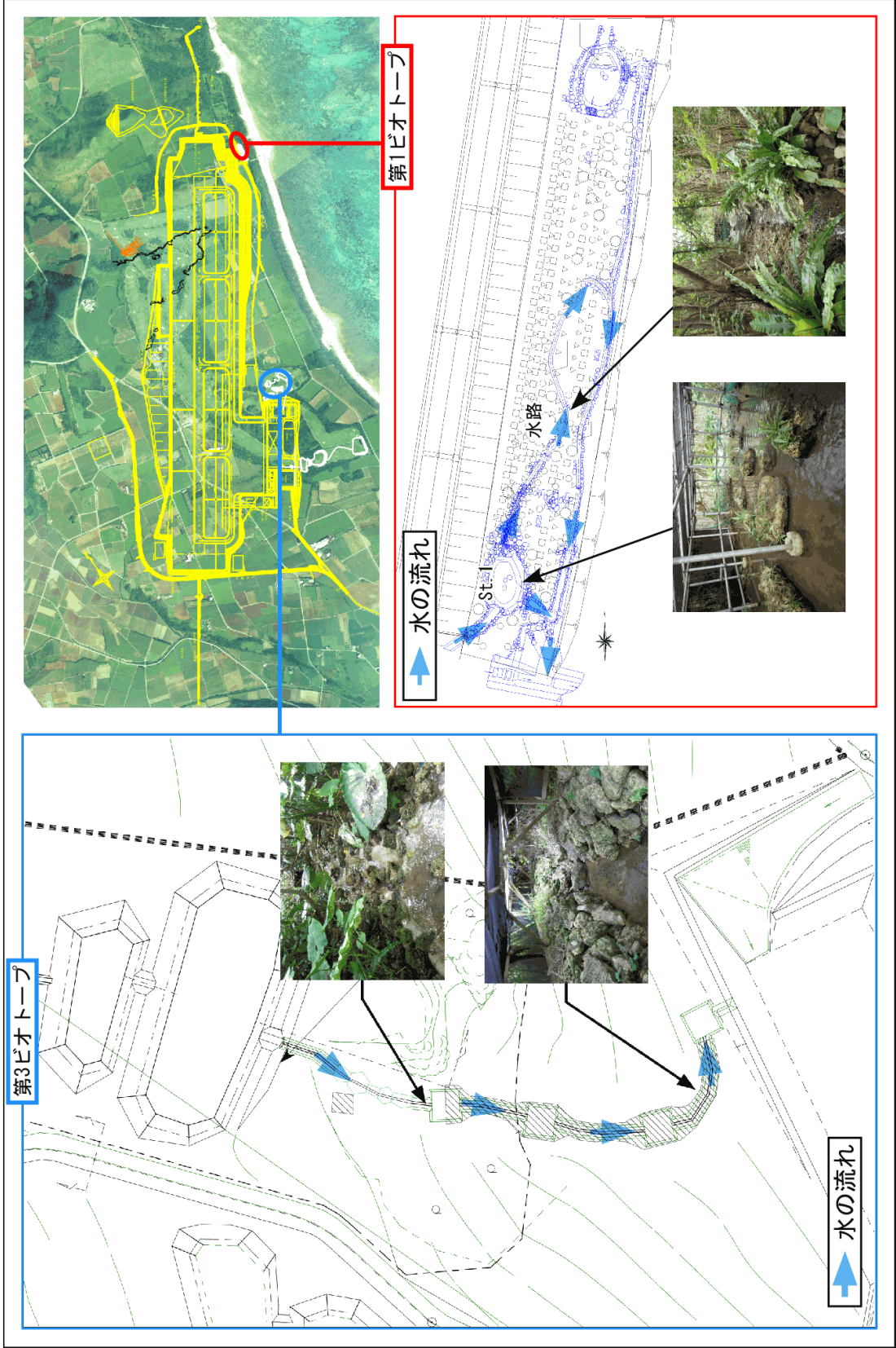


図 2-2 調査地点 (ハナサキガエル類)